

# 東京 2020 オリンピック・パラリンピック 競技大会の成功に向けた取組

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けて、大会競技会場の施設や選手村の整備、暑さ対策、テロ・防災対策など、大会の開催・運営に不可欠な取組を着実に進めます。また、バリアフリー化の推進、ボランティアの育成、多言語対応など、世界中から東京を訪れる人々を迎えるための準備も加速していきます。さらには、リデュース、リユース、リサイクルの3Rを実現し、「もったいない」という日本の伝統的な美德を世界に広めていきます。

本プランにおいては、万全の体制で東京 2020 大会を迎えるとともに、ソフト・ハード面でのレガシーを次世代に継承できるような取組を進め、大会の成功につなげていきます。

## 大会競技会場の施設整備

- ▼ 競技施設については、アスリートファーストの理念の下、最高の競技環境を実現するとともに、観客にとっても快適に観戦できる施設として整備  
また、整備にあたっては、可能な限りコスト縮減に努めるとともに、大会後においても多くの都民に利用され、親しまれる施設となるよう、民間事業者の活用など様々な手法を検討しながら、大会後の有効活用に向け取り組んでいく
- ▼ 東京 2020 大会の運営におけるハード・ソフト両面のバリアフリー基準である「アクセシビリティ・ガイドライン」を踏まえて大会会場のバリアフリー化を実施

## 大会競技会場を生かしたまちづくりの推進

- ▼ オリンピックアクアティクスセンターや海の森水上競技場などの臨海部の競技施設については、東京の水辺空間を生かした新たなにぎわいの創出につながるレガシーとしていく。  
また、競技施設に隣接する公園をはじめとした地域資源や、周辺まちづくりとの連携を進め、面的に広がりのあるレガシーを形成

## 選手村の整備

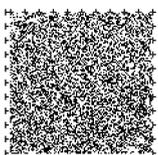
- ▼ 東京 2020 大会後、子育てファミリー、高齢者、外国人など多様な人々が交流し、いきいきと生活できるまちづくりを推進
- ▼ 水素をまちのエネルギー利用として先導的に導入するなど、環境先進都市のモデルとして、官民の連携による整備を推進

<東京 2020 大会後の選手村(イメージ)>



## ラグビーワールドカップ 2019™ との連携

- ▼ 東京 2020 大会と共通する課題について、両大会を一体のものと捉えて、戦略的に取り組む



## 大会開催気運の醸成

- ▼ 組織委員会と連携し、フラッグツアーやカウントダウンイベント、平昌 2018 オリンピック・パラリンピック競技大会のライブサイト\*などを実施し、更なる気運を醸成
- ▼ 広く開催気運を醸成するため、都内をはじめ、日本各地での事前キャンプ誘致が実現するよう、事前キャンプ候補地の各国へのPR等を支援

<ライブサイト>



<4年前イベント>



<フラッグツアー>



## アスリートの発掘・育成・強化

- ▼ 将来有望な選手や才能ある中学生を発掘・育成・強化する取組を進め、東京 2020 大会などの国際的な大会で活躍するアスリートを数多く輩出
- ▼ オリンピックやパラリンピックなどへの出場が期待される東京の選手を「東京アスリート認定選手」として認定し、その活動を支援

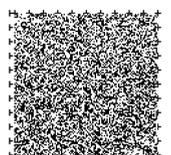
## 障害者スポーツの推進

- ▼ テレビやファンサイトなどの多様なメディアを通じて障害者スポーツの魅力を都民に発信し、障害者スポーツの観戦を促進
- ▼ パラリンピックの競技会場を満員にできるよう、パラリンピック競技体験プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」を引き続き展開し、競技の認知度向上と理解を促進
- ▼ パラリンピックを見据え、競技団体や関係企業等からの意見も踏まえ、障害者スポーツなどに供する優れた技術・製品の開発を促進し、製品を使用するアスリートを支援

<ファンサイト「TEAM BEYOND」>



<NO LIMITS CHALLENGE>



## バリアフリー化

- ▼ 大会競技会場周辺等の都道や、主要な駅と生活関連施設等を結ぶ都道において、段差の解消、勾配の改善、視覚障害者誘導用ブロックの設置などのバリアフリー化を推進
- ▼ 鉄道事業者の積極的な取組を支援することで、ホームドアやエレベーターの整備を加速するとともに、都営交通においてバリアフリー化をより一層推進
- ▼ 様々な障害の特性等に配慮し、誰もが必要な情報を容易に入手できる環境を整備
- ▼ 福祉のまちづくりサポーターの養成、周囲の人に配慮を必要としていることを知らせる「ヘルプマーク」や、緊急連絡先や必要な支援内容などを詳しく記載することで周囲の人に配慮や手助けを求める手段として活用する「ヘルプカード」の普及など、思いやりの心を醸成する心のバリアフリーを推進

### <道路のバリアフリー化>



### <駅のホームドア>



### <ヘルプマーク>



### <ヘルプカード>



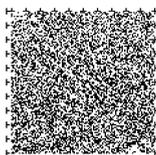
## ボランティア活動の推進

- ▼ 東京 2020 大会に向けたボランティア戦略を基に、組織委員会と一体となったボランティア運営を実施
- ▼ 東京 2020 大会に向けたボランティア情報を発信するウェブサイト「東京ボランティアナビ」を活用するなど、ボランティアへの参加気運を醸成
- ▼ 企業のボランティア休暇制度の整備を支援することにより、ボランティアへの参加気運の醸成や裾野を拡大
- ▼ 外国人おもてなし語学ボランティア、観光ボランティアなど、各種ボランティアを育成
- ▼ 都市ボランティアの募集を 2017 年度に一部前倒して行い、ラグビーワールドカップ 2019™でも活用し、そこで得たボランティア経験、運営のノウハウ、知見等を東京 2020 大会につなげる

### <東京ボランティアナビ>



### <リオ 2016 大会時のボランティア活動の様子>



## 文化プログラム

- ▼ 東京の多彩な芸術文化の魅力を国内外に発信するため、これまでにない先駆的なプログラムを展開
- ▼ 伝統芸能や演劇、音楽など様々な分野の芸術家が一堂に集結する「東京キャラバン」を、被災地を含めた日本各地で展開

＜東京キャラバン in 六本木  
(撮影:篠山紀信)＞



## オリンピック・パラリンピック教育

- ▼ ボランティア活動を支援する仕組みを構築し、ボランティアマインドを育むとともに、学校での障害者スポーツの理解促進・普及啓発を図る取組により障害者理解を促進
- ▼ アスリート等との直接交流を通じて、夢に向かって努力したり困難を克服したりする意欲を培う
- ▼ 留学生や大使館等との交流によって、豊かな国際感覚を醸成

＜アスリート等との直接交流＞



## 多言語対応

- ▼ 外国人の快適で安心な東京滞在を実現するため、移動、飲食、宿泊、医療、防災など、様々な場面における多言語対応を推進
- ▼ 外国人が多く訪れる新宿駅等のターミナル駅等において、外国人が円滑に乗り継ぎができるよう、分かりやすい案内表記の普及を拡大
- ▼ 多言語対応の取組拡大に向け、多言語音声翻訳アプリ等の最先端の情報通信技術（ICT）の活用を促進

＜多言語音声翻訳アプリ「VoiceTra」イメージ＞

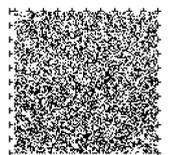


(画像提供) 国立研究開発法人 情報通信研究機構 (NICT)

＜店内表示で利用可能な代表的な英語表記・記号＞

会計	案内所	お手洗	エレベーター	エスカレーター	階段
Cashier	Information	Toilets	Elevator	Escalator	Stairs
¥	?	♂ ♀	↑	↗	↘
消火器	非常ボタン	非常口	静かに	コインロッカー	レストラン
Fire extinguisher	Emergency call button	Emergency exit	Quiet please	Coin Locker	Restaurant

(出典)「小売業の店内の多言語表示にかかるガイドライン」  
(平成 28 年3月 経済産業省)



## 産業振興

- ▼ 東京 2020 大会開催等を契機とする様々な調達情報などを提供する「ビジネスチャンス・ナビ 2020」を活用し、東京のみならず全国の中小企業の受注機会の拡大を支援
- ▼ 東京 2020 大会会場等の整備や備品の調達における多摩産材の利用促進など、大会での東京産農林水産物の活用に向け、国際認証等の取得を支援

## 被災地復興支援

- ▼ 被災地と東京の子供たちのスポーツ交流や、「未来（あした）への道 1000km 縦断リレー」などにより、スポーツの力で被災地に元気を届け、復興を後押し
- ▼ スポーツを通じて元気を取り戻しつつある被災地の姿を、様々な機会を捉えて国内外に広く発信

<未来(あした)への道 1000km 縦断リレー>



## スマートエネルギー化

- ▼ 都立競技施設、バス停留所等に、省エネルギー性能が優れたLED\*照明を導入
- ▼ 水素と酸素を化学反応させて電気をつくる燃料電池\*を搭載しモーターで走行する燃料電池バスを、大会会場周辺で運行
- ▼ 再生可能エネルギーの電力で製造した水素等のCO<sub>2</sub>フリー水素\*の利活用に向けた共同研究・実証等を踏まえ、大会開催時に都内での利用に向け推進

<LED照明付バス停留所>



<燃料電池バス>



(写真提供)トヨタ自動車株式会社

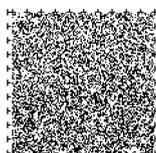
## 暑さ対策

- ▼ 大会競技会場周辺等において暑熱対応設備を導入してクールエリアを創出するとともに、マラソンコースを含む道路での遮熱性舗装等の整備など、アスリートや観客にとって快適な競技環境の実現に向けた取組を推進

<日よけによる日陰の確保>



(写真提供)株式会社ロスフィー



### 3Rの推進

- ▼ 東京 2020 大会で使用される多くの物品のリユースを進めていくため、リユース物品を希望する企業等とのマッチングのほか、使用済み物品の発生抑制やリサイクルルートに関する情報提供の仕組みづくりを検討

### テロ・防災対策

- ▼ 東京に住み訪れる人々の安全・安心を確保するため、テロやサイバー攻撃に備え、警戒警備の強化やパートナーシップ活動・共同訓練等の官民一体となった対策を推進するとともに、発生時における初動対応力を向上

<テロ対応訓練>



<消防艇とヘリの連携>

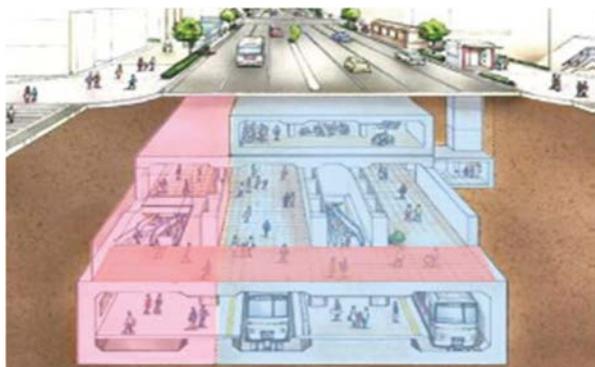
- ▼ 消防救助機動部隊（ハイパーレスキュー）、新型消防艇、ヘリコプター等を投入し、陸・海・空の消防力を連携した特別警戒を実施



### 交通ネットワーク

- ▼ 都心と臨海部を結ぶ首都高速晴海線（晴海～豊洲区間）や国道 357 号東京港トンネル、臨港道路南北線などの整備を推進し、今後の需要の増加が見込まれる臨海部へのアクセスを強化
- ▼ 選手村の最寄駅となる都営大江戸線勝どき駅の大規模改良を行うとともに、大会競技会場周辺等の主要駅では、駅施設の改良を実施

<勝どき駅の大規模改良>



- ▼ 大会開催に伴う利用者の増加や大会後の航空需要を見据え、羽田空港の更なる機能強化を推進
- ▼ 大会開催時の観客輸送にも活用可能であり、大会後は観光での利用が期待できる舟運について、定期航路における利用拡大を視野に、水上交通ネットワークを充実

<水上交通ネットワーク>



- ▼ 大会競技会場周辺等の 7 地区において、国道、都道、区市道の自転車走行空間を連続させた自転車推奨ルート約 200km（うち都道は約 100km）を整備し、利用者の利便性と快適性を向上

